

平成30年6月7日現在

機関番号：82640

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26780184

研究課題名(和文) 世代間移転と親子関係の経済学的分析：四カ国の国際比較の観点から

研究課題名(英文) An Economic Analysis of Intergenerational Transfers and Parent-Child Relations:  
from an International Comparative Perspective

研究代表者

殷 テイ (YIN, TING)

独立行政法人経済産業研究所・研究グループ・研究員

研究者番号：00707888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国際比較の観点から遺産動機やそれ以外の世代間移転が親子同居、親子の消費行動、親の子への教育投資、子供から親への介護行動に与える影響について検証した。日本、中国、アメリカおよびインドのデータを用いて、理論的・実証的な分析を行った結果、国によって親子関係は大きく異なっていくことが分かった。日本人と中国人は比較的利己的であるに対し、インド人とアメリカ人は比較的利他的であることから、高齢化が進んでいる中、介護市場への影響も異なっていくので、家庭内・家庭外の介護行動も異なっていくことが分かった。

研究成果の概要(英文)：In this research, I discussed the actual conditions and the determinants of co-residence, consumption, educational investments and the care behavior between parents and their children, especially the impact of bequest motives and the intergenerational transfers on their behaviors, using micro data from Japan, China, India and the United States. I found that there are many differences among countries. The Japanese and Chinese are relatively selfish and Indian and Americans are relatively altruistically, which also affects the need of nursing care service in a super-aged society.

研究分野：経済学、特に労働経済学、家計経済学、中国経済

キーワード：世代間移転 介護行動 消費 親子同居 家計行動 社会保障 教育投資 親子関係

## 1. 研究開始当初の背景

世界各国で高齢化が急速に進んでおり、高齢者の総人口に占める割合が高まっている現在、高齢者への金銭的援助、介護・世話などのような非金銭的援助、年金を含む社会保障制度における様々な問題は深刻になりつつ。こうした中、家計の消費・貯蓄、親の遺産動機、親子同居、親子の経済関係といった家計行動に関する研究はそれらの問題に示唆を与えることができる。経済学的な観点からこれらの家計行動について理論的及び実証的に分析し、社会保障制度をはじめとする諸制度の有効性を検証することが求められている。

家計行動に関する理論モデルは少なくとも4つある。すなわち、利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル (Bernheim, et al. 1985)、世代間の利他主義を前提とした利他主義モデル (Becker, 1974, 1981, 1991)、人々が家または家業の存続を望むと仮定する王朝モデル (Chu, 1991)、社会規範モデルなどである。今まで行われてきた先行研究の例として、大竹・ホリオカ (1994)、ホリオカ他 (1998)、Horioka, et al. (2000)、岩本・福井 (2001)、Wakabayashi and Horioka (2008) などがある。それらは主に高齢者の貯蓄行動や減税の個人消費への効果などに焦点を当て、実社会において各理論モデルの妥当性について検証しているが、親の遺産動機、親子同居、親と子の消費・貯蓄行動、就業行動、子による親の援助・世話・介護行動、子への教育投資行動及び男女の産み分け行動などに関する検証は少ない。しかも個別の国に関する分析が多く、国際比較の観点からの分析は極めて少ない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、国際比較の観点から親子の経済関係が親子の行動に与える影響について分析することである。具体的には、遺産動機やそれ以外の世代間移転 (または親の資

産) が 1) 親子同居、2) 親と子の消費・貯蓄行動、就業行動、3) 子への教育投資行動、4) 男女の産み分け行動、5) 子による親の援助・世話・介護行動に与える影響に関する理論的・実証的分析を日本、アメリカ、中国、インドのマイクロ・データを用いて行うことである。さらにその結果から、社会規範、少子高齢化と社会保障制度、年金制度、財政制度などについての適切な政策提言へと展開することも目的とする。

## 3. 研究の方法

国際比較の観点から親子の経済関係が親子の行動に与える影響について理論的・実証的に分析した。その目的を明確にまた効率的に達成するために、主に以下の方法の使用をした。(1) 遺産動機の4つのモデルに関する四か国間検証、(2) 中国の個票データをメインに用いて内成性を考慮に入れながら操作変数法などの計量手法を用いて親子関係に関する実証研究、(3) 国際比較観点から研究をさらに発展させ、日本およびインドとの相違点、また、その要因に関する研究を行った。

## 4. 研究成果

分析の成果を英文と和文の論文としてまとめ、欧文の査読付学術経済雑誌に、また経済産業研究所の Discussion Paper として掲載されたと同時に、内外の学会で積極的に発表した。中国の経済界から注目を浴びて、招待講演に呼ばれた。また、一般向けの雑誌に寄稿した。経済産業省 (METI) でも研究結果を宣伝し、一般向けの講演会を通して産学官の間に広く発信していた。

研究過程においては、研究課題の内成性問題を最大限に克服するため、最新の計量経済分析手法を随時に習得しながら、分析を行った。また、一般向けの発信においては、広い面での介護行動に関心を集めてきたので、介護サービスの需要選好についての研究も至急で

はないかと思った。

また、インドに関する研究について、とても興味深い結果が得られた。Yoshihiko Kadoya and Ting Yin(2015)は、インドの六つの都市の個票データを用いてインドにおける未亡人の老後介護への差別について検証した。その分野の実証分析はほとんど初めてである。結果としては未亡人が差別されている傾向はみられていないことが分かった。

#### 引用文献

Yoshihiko Kadoya, Ting Yin, “Widow Discrimination and Family Care-Giving in India: Evidence from Micro Data Collected From Six Major Cities” *Journal of women & Aging*, Volume 27, Issue 1, Spring, 2015 DOI 10.1080/08952841.2014.928486

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 9 件)

Ting Yin, Junchao Zhang, “More Schooling, More Generous? Estimating the Effect of Education on Intergenerational Transfers”, RIETI ディスカッションペーパー 17-E-074, 2017年5月、査読無

Keisuke KAWATA, Meixin Wang, Ting Yin, “Understanding the Health Effects of the Death of Spouses in Modern China: Evidence from the city of Qingdao”, RIETI ディスカッションペーパー 15-E-095、2015年7月、査読無

Yutaka ITO, Keisuke KAWATA, Ting Yin, “Nonprofit/For-profit Facility and Difference of Wage Distribution: Evidence from the Japanese elderly care industry”, RIETI ディスカッションペーパー 15-E-073, 2015年6月、査読無

殷婷, 暮石涉, 若林緑 『主観的な所得の予想を使った恒常所得仮説の検証 中国のマイクロデータを使ってー』 RIETI ディスカッションペーパー 15-J-016、2015年4月、査読無

Yoshihiko Kadoya, Ting Yin, “Widow Discrimination and Family Care-Giving in India: Evidence from Micro Data Collected From Six Major Cities” *Journal of women & Aging*, Volume 27, Issue 1, Spring, 2015

DOI 10.1080/08952841.2014.928486

暮石涉, 殷婷, 『退職後の消費支出の低下についての一考察』 季刊家計経済研究

Winter No.105、2015年、pp.13-25、査読無

暮石涉, 殷婷, 『退職後の消費支出の低下についての一考察』 RIETI ディスカッションペーパー 15-J-001、2015年1月、査読無

殷婷, 川田恵介, 許召元, 『介護労働者の賃金関数の推定 学歴プレミアムと資格プレミアムー RIETI ディスカッションペーパー 14-J-033 2014年5月、査読無

Yoshihiko Kadoya, Ting Yin, “Who will care for older people in China? Exploring the implications of gender imbalance at birth”, *Working with Older People*, Issue 18, 2014, 査読無 DOI 10.1108/WWOP-01-2014-0002

#### 〔学会発表〕(計 5 件)

Ting Yin 『日本の高齢化および介護産業について』 中国上海華東師範大学公共管理研究科のセミナー 招待講演 2017年

Ting Yin “Understanding the Health Effects of the Death of Spouses in Modern China: Evidence from the city of Qingdao” 2016 CES Annual Conference in China 2016年

Ting Yin “Nonprofit/For-profit Facility and Difference of Wage Distribution: Evidence from the Japanese elderly care industry” 2016年度日中経済シンポジウム 招待講演 2016年

Ting Yin “Nonprofit/For-profit Facility and Difference of Wage Distribution: Evidence from the Japanese elderly care industry” 第17回労働経済学コンファレンス 2014年

殷婷 『主観的な所得の予想を使った恒常所得仮説の検証 中国のマイクロデータを使ってー』 日本経済学会春季大会 2014年

#### 〔図書〕(計 2 件)

殷婷 毎日新聞出版 『中国年鑑2015』の『要覧・統計 社会保障・医療制度』一節を担当 総496ページのうち126 - 131担当

殷婷 毎日新聞出版 『中国年鑑2014』の『要覧・統計 社会保障・医療制度』一節を担当 総496ページのうち356 - 360担当

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.rieti.go.jp/users/yin-ting/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

殷 テイ (YIN, TING)

独立行政法人経済産業研究所・研究グループ・研究員

研究者番号： 00707888

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

( )